

<p>1 学校教育目標</p> <p>校訓 至誠一貫・進取向上・自治協同</p> <p>教育目標 「文武一徳」の人づくり 知性を磨き体を鍛え、徳の備わった、社会のリーダーたる人材の育成</p> <p>めざす学校像 『進学も部活動も元気な、生徒が主役の学校』 部活動の盛んな進学校として、地域から愛され、信頼される学校をめざす</p> <p>育てたい生徒像 ○ 高い志と使命感をもった、社会に貢献できる生徒 ○ 心身を鍛え、何事にも積極的にチャレンジできるたくましい生徒 ○ 互いに協力しながら、主体的に行動できる生徒</p>

<p>2 現状分析</p> <p>「『文武一徳』のひとつづくり」を教育目標に掲げ、全人的発達をめざした教育を伝統的に進めている。その教育方針について、生徒・保護者アンケートでは本校のめざす教育に高い評価いただいている。また、生徒・保護者だけでなく地域においても共感的な理解をいただいている。</p> <p>進学実績については一昨年度に緩やかな改善傾向が見られ、昨年度は国立大学合格者数が前年度よりも増えた。しかし、今後とも大学進学に対応できる学力の向上を一層図っていくことが課題である。</p> <p>そのために、今後とも入学生の学力、伝統の校風を維持発展させるために、進学意識の啓発と併せて、生徒の学力伸長のための具体的手立てや部活動との両立の方法を学校全体で取り組んでいく必要がある。また、生徒一人ひとりの抱える生徒指導や学習指導に関する問題に対応した個別の指導も引き続き進めていく必要がある。</p>
--

<p>3 本年度重点を置いてめざす成果・特色、取り組むべき課題</p> <p>【平成28年度の重点目標】 ① 豊かな心とたくましい体の育成 ② 進路希望の実現 ③ 学習習慣の定着 ④ 学校情報の効果的な発信</p> <p>【平成28年度チャレンジ目標】 「毅然躬行」</p>
--

4 自己評価					5 学校関係者評価		
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	実践目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
教務	学習習慣の確立	朝学や授業を通して学習習慣の大切さを喚起し、継続した指導で学習習慣の確立を図る。	授業アンケートで「授業の予習または復習」を行っている・ほぼ行っているの割合が80%以上であった。 授業アンケートで「授業の予習または復習」を行っている・ほぼ行っているの割合が60%以上であった。 授業アンケートで「授業の予習または復習」を行っている・ほぼ行っているの割合が40%以上であった。 授業アンケートで「授業の予習または復習」を行っている・ほぼ行っているの割合が40%未満であった。	2	今年度の授業アンケートでは「授業の予習または復習を行っている」の項目で「行っている・ほぼ行っている」が合計42.4%であり、昨年の40.4%から2.0ポイント上昇した。昨年度から始めた朝学を始めとして、授業・全体集会・学年通信・クラス便り等を通じて学習意欲の喚起を図っていることがその要因だと考えられる。しかし、依然として「あまり行っていない」28.6%、「行っていない」29.0%と合計で57.6%と半数以上が授業時間外の学習を行っておらず、教職員全員でさらに働きかけをしていきたい。特に「行っていない」項目が0人となるよう教職員全体の課題として努めてきたい。	○学習習慣は今までなかなか実行できていなかった項目だったので、かなり効果が上がってきていると感じる。 ○勉強をするために高校にきているという気持ちをもっと強いものにすれば良いと思う。 ○アンケート項目「授業の予習または復習を行っている」について、「行っていない」の具体的な理由と対象科目についての記述がほしい。	B
	学力の向上	研究授業や互見授業の研究協議等を通して、授業改善に取り組み、学力が身につく指導の確立を図る。	授業アンケートで「授業で学んだことが、力として身につけていますか」の「身につけている・ほぼ身につけている」の割合が85%以上であった。 授業アンケートで「授業で学んだことが、力として身につけていますか」の「身につけている・ほぼ身につけている」の割合が65%以上であった。 授業アンケートで「授業で学んだことが、力として身につけていますか」の「身につけている・ほぼ身につけている」の割合が45%以上であった。 授業アンケートで「授業で学んだことが、力として身につけていますか」の「身につけている・ほぼ身につけている」の割合が45%未満であった。	3	年間2回の互見授業週間、各教科1回以上の研究授業・研究協議を行っている。他教科の授業参観、研究協議も昨年度以上に積極的に行われ、授業技術や生徒理解など授業改善に取り組むとともに教科間教職員間の交流も図っている。昨年度から目標値を5ポイント上げたが、今年の数値結果は81.3%で昨年の81.0%よりやや上昇したものの達成度については低下した。「学力が身につく」ことの受け取りが「授業などでそのとき分かる」「定期テストで正解する」「模試で偏差値50以上とれる」等々、認識と定着のズレがあることも授業アンケートの数値結果と模試結果等で考えられる。	○全ての項目において習慣づけのシステムがあれば、もっとよくなるのではないかと。 ○実態調査に工夫が必要である。	
生徒指導	交通マナーの徹底	自転車点検を実施する。 交通安全教室を実施する。 登校指導を実施する。 全体集会における諸注意を実施する。	4: 十分指導ができ、自転車過失事故が5件以内かつマナーの徹底ができた。 3: 計画通り指導ができ、自転車過失事故が10件以内、かつマナーがほぼ守られた。 2: 計画通り指導ができたが、自転車過失事故が10件を超えた、またはマナーがあまり守られていなかった。 1: あまり指導ができず、自転車過失事故が10件を超え、かつマナーがほとんど守られていなかった。	4	「1学期当初の自転車点検」・「3学期自転車ステッカー点検」によって整備の徹底がほぼできた。また、「交通安全教室」や「登校指導」・「全校集会での度重なる注意」・「生徒による啓発運動」などにより生徒の意識付けを図ることができた。自転車過失事故は4件であり、指導の効果があつた。マナーについては完全に守られているとは言えないが、徹底した指導を行うことはできた。	○あいさつに関しては、全く問題ない。むしろ大人の方が「これではいけない」と思うくらい素晴らしい状況である。 ○地域のボランティア活動にも積極的に参加してもらい、大いに活躍している。 ○中国大会や全国大会に出場する部以外でも元気に練習している様子が見受けられ、さすが文武両道だと思った。	A
	豊かな心の育成	あいさつ・各種活動への積極的参加等の継続的指導を行う。 日常的なコミュニケーション活動や面談等によるサポートを行う。	4: 問題行動や人間関係によるトラブルの発生率が5%未満であった。 3: 問題行動や人間関係によるトラブルの発生率が5%以上10%未満であった。 2: 問題行動や人間関係によるトラブルの発生率が10%以上20%未満であった。 1: 問題行動や人間関係によるトラブルの発生率が20%以上であった。	4	あいさつの励行は良くできていた。また、部活動加入率は95%以上であり、各行事・LHR活動等の積極的参加も見られた。さらに、各クラスにおける面談も複数回行われ、記録も充分残した。数件の人間関係のトラブルがあつたが、早期に解決しており、全体的に生徒は充実した学校生活を送れたものと思われる。	○人間関係のトラブルが気になるが、これも社会に順応していく大事な訓練だとも思う。	
	高校生活への適応と心の健康の保持 [教育相談担当]	教育相談の立場からの、ケースバイケースでの担任や生徒への働きかけとサポートを行う。	4: 担任と協力して生徒を支援することができた。 3: 担任と情報を共有することができた。 2: 担任との連絡が不足していた。 1: 担任が抱え込み孤立した。	4	メンタル面で問題を抱える生徒が増加する中で、各学年ごとに教育相談担当を配置し、迅速に対応できるようにした。それぞれ担任を支援し、サポート役として十分に機能した。また、教育相談会で話し合ったり、スクールカウンセラーと連絡を取ったり、必要に応じてケース会議を主催し支援の方向性を検討したりして、生徒及び担任を適確に支援した。		

進路指導	学習時間の確保と学習習慣の確立	学年ごとに学習習慣への確立につながる取り組みを実施する。	4: 十分な実施ができた。 3: ほぼ実施ができた。 2: あまり実施できなかった。 1: ほとんど実施できなかった。	3	学習習慣に繋がる取り組みとして、1学年の初期指導でのチャレンジタイムの実施、3学年の大学受験に向けての放課後自習など各学年で工夫した取り組みができ、成果の見られた生徒も多い。今後は家庭での学習時間の確保および定着が課題である。	○学習時間の確保に関する自覚は、かなり上がっていると思う。一層の時間増を期待する。 ○生徒のアンケートでも、学校の進路指導に関する情報提供などが進路決定に大いに役立っていると答えており、学校の取組が効果を上げているものと思われる。	B
	進路情報の提供の充実	進路新聞の発行や保護者向け進路通信を定期的に発行し、進路に関する情報を生徒・保護者に提供する。	4: 十分な実施ができた。 3: ほぼ実施ができた。 2: あまり実施できなかった。 1: ほとんど実施できなかった。	3	生徒向けの進路通信はQ & A形式の内容として発行し、わかりやすい情報提供ができた。進路資料室での情報提供や各クラスへの配布物を通しての情報提供も必要に応じて実施した。保護者に対しては、例年通りの保護者対象進路講演(1・2年、3年)だけでなく進路通信(保護者版)を発行し、情報提供に努めた。		
総務	学校安全の徹底	学期ごとに施設設備の安全点検を実施する。	4: 施設設備安全点検実施率が90%以上であった。 3: 施設設備安全点検実施率が70%以上であった。 2: 施設設備安全点検実施率が50%以上であった。 1: 施設設備安全点検実施率が50%未満であった。	4	各学期に全教員が担当掃除区域ごとに安全点検を実施した。不良箇所については事務室の協力により補修ができ、安全な学校生活ができる環境を維持している。	○学校HPはいつも見ている。充実している。すばらしい。 ○情報提供について、求めている情報が具体的に何であるかのアンケートをしてはどうか。 ○話題の本をどんどん入荷していただきたい。	A
	情報提供の充実	分かりやすい学校ホームページや配付するプリント等で、役立つ学校情報の整理・発信を行う。	4: 学校評価アンケートの学校情報発信に関する項目(質問1)で評価2以上が80%以上であった。 3: 学校評価アンケートの学校情報発信に関する項目(質問1)で評価2以上が60%以上であった。 2: 学校評価アンケートの学校情報発信に関する項目(質問1)で評価2以上が40%以上であった。 1: 学校評価アンケートの学校情報発信に関する項目(質問1)で評価2以上が40%未満であった。	3	豊浦高校学校ホームページの大幅なリニューアルを図り、より多くの情報を学校から発信できるようになった。今後もホームページ担当者会議を開きながら、内容の更新・充実に努めていきたい。		
	図書室利用の促進	生徒・教職員のニーズに応じた資料を整え、貸出の増加を図る。	4: 昨年度より貸出数が大幅に増加した。 3: 昨年度より貸出数がやや増加した。 2: 昨年度と貸出数が同じであった。 1: 昨年度より貸出数が減少した。	1	学年により差があるが、比較的図書室をよく利用している。貸出数が圧倒的に多かった3年生(117期生)が卒業したこと、新1年生の貸出数が伸びなかったことが減少につながった。生徒が本をあまり読まなくなりつつあるので、今後は読書の習慣を身につけられるよう、関係教科や学年と協力しながら努力していきたい。		
保健体育	体力の向上	スポーツテストの総合判定においてA判定が1年生15%以上2年生25%以上3年生35%以上をめざし授業の充実を図る。	4: 3学年とも目標以上であった。 3: 2学年において目標以上であった。 2: 1学年において目標以上であった。 1: 全学年とも目標に達していない。	4	本校は運動部活動が盛んであり、体育の授業においても豊高体操を始め体力を増進させる場面が多く、体力・運動能力の向上が著しい。	○現状に満足せず、上をめざしてほしい。	A
	健康の保持増進	継続的に個別・集団の保健指導を行い虫歯の治療率を上げる。	4: 治療した者が80%以上であった。 3: 治療した者が50%以上であった。 2: 治療した者が30%以上であった。 1: 治療した者が30%未満であった。	2	う歯が全身に及ぼす影響についての知識不足、また自己管理について各自の自覚が足りない状況である。		
1年	予習・復習を中心とする学習の継続・習慣化	高校生活初期段階での授業の予習・復習などの学習の習慣化を図る。「学年だより」等を通して生徒の進路実現のための有益な情報を発信し、生徒の学習意欲の啓発に継続的に努める。	4: 「予習・復習を含め家庭学習時間が平日2時間以上」が80%以上であった。 3: 「予習・復習を含め家庭学習時間が平日2時間以上」が60%以上であった。 2: 「予習・復習を含め家庭学習時間が平日2時間以上」が40%以上であった。 1: 「予習・復習を含め家庭学習時間が平日2時間以上」が40%未満であった。	1	評価基準に関して、3学期に1学年生徒全員を対象にアンケートを実施した。平日2時間以上の家庭学習を実施できたと回答した生徒は24%しかいなかった。学年としては、常日頃から生徒に個人面談等を通して勉強するようにと声かけをしたり、「学年だより」を11号まで発行し、生徒の学習意欲の啓発等につとめた。また、定期考査前は部活動の多くが活動を休みにしたり、活動時間を短縮することにより、1年生全体が考査に向けて勉強に励んでいた。しかし、これらのことが日頃の生徒の家庭学習の時間の増加に十分に結びついていない。	○生徒・保護者のアンケートで、家庭での学習はなかなか実行できていないように思われたが、学校側の取組で、1年生よりは2年生で家庭学習時間が増加しており、効果が表れている。 ○3年スパンの大きな流れを作成し実行していくことが必要と思われる。	B
2年	進路を意識した学習習慣の定着	進路研究を進めるとともに、予習・復習を中心とした家庭学習を定着させる。	4: 家庭学習時間が1年次に比べ大幅に増加した。 3: 家庭学習時間が1年次に比べ増加した。 2: 家庭学習時間が1年次に比べやや減少した。 1: 家庭学習時間が1年次に比べ大幅に減少した。	3	1年次に比べ、小テストや課題に意欲的に取り組む生徒が増えており、家庭学習時間も増加した。今年度は、出張授業「カタリ場」で、大学生の経験談を聞き自分の悩みを語るといった機会が設けられ、生徒の進路意識を高める良い契機となり、学習意欲の向上にもつながった。	○生徒自身に、具体的な目標・数値の設定と実現に向けた対策を個々に定めさせ、定期的に自己評価と今後の対応をつくらせてはどうだろうか。	
3年	進路先を自ら決定する能力及び進路実現に向けた実行力の育成	面談等を通して自ら進路先を決定し、実現に向け計画的に学習を実行していくようサポートする。	4: 年間を通して十分な指導ができた。 3: 年間を通してほぼ十分な指導ができた。 2: 年間を通してあまり指導ができなかった。 1: 年間を通して全く指導ができなかった。	3	担任を中心に年度当初より事あるごとに面談を重ね、進路先を自ら決定できるよう指導した。また1学期は学年の取り組みとして、週ごとの学習計画作成、学習時間・内容を把握し、学習に対する助言等を行って、計画から実行までの支援をした。その他自習室開放、小論文指導、面接指導等にも学年全体で取り組んだ。生徒は少しずつ意識を変え、進路決定と学習に意欲的に取り組む者が増えた。		
業務改善	業務の効率化	各種会議時間を短縮し多忙化の解消を図る。	4: ほぼ全ての会議が1時間以内に終了した。 3: 8割の会議が1時間以内に終了した。 2: 6割の会議が1時間以内に終了した。 1: 1時間以内に終了した会議は6割未満であった。	2	定例の会議については、学校運営における教職員の共通理解を図る必要性から、一定の時間はかかる。運営委員会では1時間以内に終了した議題・報告事項が、職員会議では1時間を超えたものも多かった。	○昨年からのストレスチェックが実施されることとなったが、まずは、教職員が健康で生徒に向かい合っていくことが大切である。 ○体調に気をつけて、よろしく願いいたします。	B
	教職員の健康管理	健康診断結果に基づいた健康管理を行う。	4: 再検査者の受診率が100%であった。 3: 再検査者の受診率が80%以上であった。 2: 再検査者の受診率が70%以上であった。 1: 再検査者の受診率が70%未満であった。	2	再検査対象者は全教職員の6割程度である。そのうち再検査の受診率は70.4%で、県立学校の平均58.2%と比較すると上回っているものの、今後も受診率100%に向けて、健康管理の促進と併せて努力する必要がある。		

6 学校評価総括（取組の成果と課題）	
教務	生徒の「学習習慣の定着」「学力の向上」をめざし取り組んでいる。昨年度から始めた朝学も軌道に乗り、活用できている。授業アンケートについては、項目比較も学年間比較・アンケート実施日比較・年度比較としているが、例年同じような傾向にある。予習・復習は、3年＞1年＞2年、7月＞11月、今年＞昨年であるが、年々全体の学力平均が低下していると模試結果等で判断できる。昨年度は生徒一人ひとりの意識が大事であることのご意見もあり、今年は全体集会や各クラス・学年通信での喚起を図ってみた。その結果、昨年度より2ポイントの上昇となった。勉強習慣のついていない生徒には、いきなり「学年＋1時間の家庭学習時間」より、せめて「その日出された宿題を復習すること」から始めさせ、定着と向上をめざしたい。また、試験期間中は部活動単位で勉強時間を確保しているところもある。
生徒指導	いずれも、組織的、計画的な指導や繰り返しの指導、早期対応の指導により、100%とは言えないが各種問題を最小限に抑えることができた。交通安全については、同じ目標を数年続け、指導をより充実させてきたことにより、自転車事故の減少や通行マナーの改善が見られる。しかし、一部に意識不足の生徒もあり、外部からの苦情も数件受けていることから継続指導が必要である。豊かな心の育成について、あいさつの励行が浸透しており、また、部活動・学校行事等では積極的な生徒活動がみられる。教員と生徒のコミュニケーションも良くとれており、担任や教育相談による面談も計画的に行われた。日頃の生徒の観察とともに、各学期における被害等の調査により、多様なトラブルの確認もとれた。またトラブル発生時には早期対応・早期解決することができた。生徒は全体的に明るく、落ち着いた学校生活を送っていた。しかし、数件の人間関係トラブルは常に起こるものであり、これからも同様な教育体制を継続していきたい。各学年担当の教育相談係が担任と充分連携したことや中学校と連携した新入生の事前調査、学校カウンセラーの活用により、様々な問題が概ね解決し、担任のサポート役として教育相談室がよく機能した。メンタル面の弱い生徒や学校不適応の生徒はこれからも存在する可能性があり、同様な教育相談体制を継続していきたい。
進路指導	1年生の初期指導で行われるチャレンジタイムや大学訪問で、入学当初の高校生活の学習習慣や大学進学に関する意識づけはしっかりできたと思われるが、1年次後半から2年次3年次と、高校卒業後の大学進学や就職に対する意識の継続とそれに対する学習への取り組みへの繋がりに課題が残る。今年度は「総合的な学習の時間」を検討し、一年を通じた進路指導がより充実したものになった。
総務	学校の施設設備については、毎学期ごと安全点検を全教員で実施し、事務室の協力も得ながら、不良個所の補修点検を常に行ってきた。今年度は防火に備えた避難訓練もを行い、消防署の協力も得ながら、消火器の使い方等の訓練も実際に行った。また、豊高ホームページをFace Bookも利用できるように大幅にリニューアルし、リアルタイムで学校から情報が発信できるようにその改善に努めた。図書においては、今年も生徒・教職員の希望図書を積極的に購入し、常に新しい資料を提供できるように努めた。
保健体育	体育の授業や運動部の活動を通して、体力・運動能力の向上は図られている。歯の治療については、毎学期の治療報告を担任・養護教諭・部の顧問を通して行っているが、治療率が上がらなかった。
1年	1学年生徒定員180人に対して、1学年生徒数は177人。この学年は定員割れでスタートした。学力的に極めて優秀な生徒もいれば、学習習慣が身につけていない生徒もおり、1学年は学力的に幅のある多様な生徒により構成されている。学年の取組としては、担任がきめ細やかな個人面談を実施し、個々の生徒を理解することに努めた。また、進路意識の向上のため、勉強の大切さに説明の重きを置いた「学年だより」を2月現在で11号まで発行し、生徒の進路実現のための有益な情報発信にも努めた。しかし、上記のアンケートより、生徒4人に1人しか平日2時間以上の勉強を確保できていないという厳しい状況である。課題としては、生徒の勉強と部活動の両立であろう。部活動によっては、土日の休みを終日活動したり、考査中でも活動している。実際に生徒が勉強時間を捻出するには困難な側面もある。各部活動の顧問からも勉強するようにと指導し、学校全体で勉強への声かけをする必要があるのではないかと考える。
2年	高大連携授業や各種講演会の他に「カタリ場」という新しい試みをする等、生徒の進路に対する意識が高まるようにした。また、「学習時間調査」の際、「学習以外（ゲーム・スマホ等）」の時間も調査し、家庭での時間の使い方のバランスを確認させた。部活動の主力となる学年で多忙の中、時間確保が課題であるが、生徒の意識の変化と努力によって、学習時間が増加したと考えられる。今後も「学習」と「学習以外」の時間のバランスを意識させるような働きかけを継続していくことが必要である。
3年	3年生の指導の根幹として、「意識づけと計画・実行のサポート」を考えて取り組んだ。3年生になり進路意識は高まってはいたものの具体性に乏しく、担任を中心に個別に丁寧な指導を心がけた。繰り返し声をかけて行く中で進路を真剣に考え、勉強に集中する生徒が徐々に増え始め、十数名が放課後夜遅くまで学校に残って学習する状態にはなったが、全体では受験集団としての雰囲気になりきることができなかった。進路意識を向上させていくためには、1年次からの系統立てたキャリア教育の実施が重要となるが、今ですではまだ改善の余地があり、今後再検討していく必要があると考える。また基礎学力定着不足の生徒や、学習習慣の確立ができていない生徒の増加も課題である。近年の傾向として本校に入学する生徒の基礎学力や進路希望等が、以前に比べて多様になってきたため、従来通りの進路指導では成果をあげるのが難しくなっているのが現状である。
業務改善	会議時間の短縮だけでなく、業務の効率化と教職員の健康管理は、今後も継続して取り組む必要がある。

7 次年度への改善策	
教務	授業アンケートの予習・復習の項目で、本校生徒の半数以上が「行っていない・ほぼ行っていない」である。背景には家庭学習習慣の低下があるのではないかと。学年進行ではあるが、学習時間を含めた学習習慣を記録し、可視化する取組みも順次始まっていく。来年度は、一歩踏み込んで各学年と連携して「家庭・通学・SNS・部活動など」と詳しく分析したいと考えている。今年度は2年生で「県内大学魅力発見プログラム」で現役大学生が座談会方式で語り合う「カタリバ」をおこなって、刺激を受けた生徒も多かったが、今はずいぶん前の時の気持ちも薄らいでいるように感じられる。全体的に忘れ方は早い。時折刺激することで思い出させる指導もしていきたい。まずは教職員全体からより一層意識を高めるため、研究授業、互見授業、研究協議は継続し、生徒には「学習習慣の確立及び学力の向上」に向かって、勉強だけでなく基本的な生活習慣も含めて注意喚起していきたい。
生徒指導	「交通安全教室」について、今年度は応募に外れたが、来年度は体験的な学習により、マナーや事故の恐怖をより真剣なものとして捉えさせることのできる企画が実施できようであり、より効果的なものになりたい。また、さらに生徒総会等、生徒間において啓発できるよう指導したい。「豊かな心の育成」「教育相談」については、引き続き、中学校との連携、学校内での連携、教員間の共通理解、家庭との連携を重視し、充実させていきたい。特に、生徒の観察力を挙げ、未然防止、早期発見・解決を継続したい。
進路指導	生徒自身の進路意識（将来の夢、志望大学など）を、3年間を通していかにして継続的に向上させるか、日頃の学習時間不足を生徒自身が認識できるか、といった点を再検討し、進路課と学年との連携をより綿密にした進路指導体制を築きあげていきたい。
総務	学校の施設設備の安全点検は、次年度も事務室の協力を得ながら、きめの細かい点検や補修を行っていききたい。防火・防災訓練は来年度も実施し、防火・防災意識の向上に努めていきたい。リニューアルされた豊高ホームページについては、教職員や生徒会も積極的にホームページに参加できるように、ソフト面の養成に努めていきたい。図書においては、生徒たちの読書離れの傾向が感じられるので、読書の習慣を身につけさせるよう対策を講じたい。また、PTA総会は、多くの保護者の参加を得ながら実施できたが、さらに保護者の参加率を高められるよう、新しい企画等も考えていきたい。
保健体育	体育の授業・体育的行事などを通して運動意欲を引き出し、体力・運動能力の向上を図りたい。安全面においては、体育の授業や部活動などの場面において安全管理・危険予測などの指導を通してけが防止を図りたい。う歯保有者に対しては、担任・養護教諭・部活動の顧問からの指導を強化したい。
1年	今年度の「学校評価総括」を踏まえて、次年度は以下のように生徒の勉強環境の改善を図りたい。 （1）部活動に日々励むことは高校生活のなかで貴重な経験であり、3月2日現在、1学年生徒の95.5%の生徒が部活動に加入している。そういう理由から、顧問からも積極的に部員へ勉強の声かけをしてもらう。 （2）来年度より新機軸としてベネッセのclassi（インターネットを活用した勉強ツール）を導入し、生徒の学力に合った教材により生徒のやる気を喚起し、少しの隙間時間を活用できるので勉強時間の増大に繋げる。 （3）生徒が勉強せざるを得ない環境づくりをする。例えば、週末には休日の学習プリント等の宿題を生徒に課し、翌週の月曜日に提出する。将来の生徒の大学進学等を考慮すれば、2年次までの勉強量が大切である。3年生になって慌てて受験勉強しても受験に間に合わないことが多い。2年次をよく言われる「中だるみの2年」にするのではなく、3年次に繋がる「勉強の2年」にしたい。
2年	2年生は部活動の主力として多忙であり、勉強との両立に悩む生徒が多いため、担任との個人面談できめ細かな聞き取りをすることが大切である。さらに、今年度実施した「カタリ場」のような大学生達と率直に悩みや将来の夢について語り合える場が今後も設けられることが望ましい。このような、生徒にとって身近な存在である大学生等との話し合いは、進路意識の向上や学習への意欲を高めるのに有効であると考えられる。
3年	進路指導に関して、一斉指導ではなかなか効果があがらない状況なので、いかに早い段階から個別に面談を重ね、進路目標を明確にさせることができるかが重要である。また学習習慣形成においても、自主性を育むのもとより、学習の場を与え積極的に学校が支援していくことが今の本校の生徒には必要である。3年生においては、多くの生徒が部活動を続けている中、受験モードへの早期の切り替えが課題である。また本校の教育システムについても、一律にただ「国公立大学進学をめざす」ということだけでは通用しなくなっているため、コースの細分化、別離化など生徒の実情により合ったきめ細かい学習指導、教育システムを考えていく時期に来ていると考える。学校全体の問題として、本校がどうあるべきか、どういう道に進むべきかについてビジョンを持ち、全教員が共通の認識の下、指導に当たることが必須である。
業務改善	会議時間の短縮に向けた努力をする一方で、組織として会議内容を踏まえた十分な共通理解を図る必要がある。これらを両立させるために、ysnメールを利用して伝達を行うなど新しい取組を検討する必要がある。また、部活動における週1日の休養日を設定し、生徒のバランスの取れた生活と成長の確保はもとより、教職員の業務の負担軽減に取り組む。